

(様式1)

令和7年度 自己評価表

愛媛県立新居浜工業高等学校

学校番号 (7)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
○ 確かな学力と技術・技能を持った次世代のマイスター人材を育成します。 ○ 社会の一員としての自覚や高い規範意識を持った人材を育成します。 ○ 自ら学び、考え、判断し表現できる人材を育成します。 ○ 多様性を受け入れ、協働する心を育成します。 ○ 地域理解に努め、地域に貢献できる人材を育成します。	○ 地域産業界と連携したものづくり教育を推進します。 ○ 各種資格の取得を推奨し、専門的な知識や技術・技能の定着を図ります。 ○ 主体的・対話的で深い学びを取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成します。 ○ ボランティア活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育成します。 ○ 学校行事や部活動等を通して、自己有用感・責任感・連帯感を育成します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	<u>グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上</u>	B	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、81%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、18%が「どちらとも言えない」、1%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	きめ細かな指導により基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに学力の定着を図り、地場産業を支える職業人の育成を図る。また、地域連携の促進などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
学習指導	基礎学力の向上	<u>基礎・基本の定着を重視した分かる授業の実践を進める。「国語・数学・英語」については、基礎・基本の定着を図るために、少人数指導やティーム・ティーチングを取り入れ、学習活動の充実を図る。</u> <u>家庭学習時間を確保するために、教科間で連携しながら適切・適当な課題を設定し、生徒の学習習慣の確立を図る。</u> 技能審査の成果の単位認定を促進することで、主体的に学びに向かう態度を醸成する。	B	授業評価アンケートにおいて、「授業は分かりやすい」と回答した生徒が1・2学期ともに96%いた。一方で、考査期間中の学習時間は目標の2時間を1学期は30分程度、2学期は1時間程度下回っており、十分とは言えない。授業内容の定着のためには、家庭での学習習慣が必要不可欠であり、家庭学習時間の増加は継続的課題である。	分かる授業の実践はこれまでと同様に継続して進められているものの、100%を目指したい。次年度も2回の授業評価アンケートを実施し、目標の達成状況を確認する。また、基礎学力を向上させるためには家庭での学習習慣の定着が重要であるため、引き続き適切な課題の設定を呼び掛ける。
	教科指導の充実	<u>主体的・対話的で深い学びの在り方、ICT機器を積極的に活用した授業実践の方法を研究し、授業改善に努める。</u> <u>観点別学習状況の評価方法について更に研究・改善し、</u>	A	各教科・学科において、端末等を活用した授業実践や課題配信等を行うことができた。 観点別評価については、基準の見直	観点別学習状況の評価については、他校の実践事例を参考にしながら本校生徒に実態に即したものとなるように改善すべき

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
		指導と評価の一体化を踏まえた学習指導に活用する。 <u>年間2回の相互授業参観週間や、各教科で実施される研究授業など、教科横断的に授業参観をすることで指導方法の研修に努める。</u> 総合教育センター研修や学校訪問研修等の積極的な参加により、教科指導力の向上を図る。		しを検討し、次年度に向けての改善点を行った。 4名の初任者の授業に多くの教職員が参観し、指導・助言したり、相互に積極的に授業参観を行ったりして指導方法の研修に努めた。 県立学校の学校訪問に、多くの教職員が参加して教科指導力の向上に努めた。	ところは改善を図る。 I C T機器の効果的な活用方法等については、今後も様々な機会を通して研修を重ね、相互で情報共有を行い、活用頻度を高めていけるように学校全体で取り組む。
学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	P T A活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。	A	P T A活動が熱心に行われた。保護者の方の提言を参考にして、レクバレーの充実や地域企業見学、運動会や新工祭バザーにおいて、多くの方の参加があり、充実したものになった。	S N Sを活用したP T A連絡網の開設によって連絡がスムーズになった。効果的な利用方法を更に工夫して、活動の在り方を検討していく。
		学校行事や部活動、各学科の授業の様子などを、学校ホームページや「新居浜工業高校公式チャンネル」などを活用して配信し、保護者や地域へ向けて、学校の魅力をアピールしていく。 保護者向けの連絡等が携帯メール等を利用して確実に伝わるように努め、学校と家庭との連携がより強くなるように努める。	A	学校ホームページでは、記事が随時更新されており、学校行事を中心に、生徒や学校の様子を伝える努力がなされた。「新居浜工業高校公式チャンネル」にて、学校での活動を伝えたが、新たな記事のアップをして更新回数を更に増やす努力が必要であった。 また、保護者へのマチコミメールによる文書の配付案内は好評であり、 <u>登録率も最終的に98%を超えた。</u>	ホームページや公式YouTube チャンネル等の更新を図りたい。本校の魅力をより知っていただくように努める。 マチコミメールの効果的な活用にて、P T A便りをはじめ多くの連絡事項・学校情報を適切に発信し、メール登録率100%を目指したい。
工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	ジュニアマイスターの取得対象者数を <u>ゴールド4人以上シルバー8人以上</u> にし、卒業時の資格・検定取得数を一人当たり <u>平均4個以上</u> にする。 ゴールド (<u>A:4人以上、B:3人、C:2人、D:1人、E:0人</u>) シルバー (<u>A:8人以上、B:7人、C:5、6人、D:4人、E:4人未満</u>) 卒業時 (<u>A:4個以上、B:3個、C:2個、D:1個、E:0個</u>)	B	目標として掲げたジュニアマイスターの取得対象者数は、現在申請中であるが <u>ゴールド3名、シルバー2名となり</u> 、ゴールド4名以上・シルバー8名以上の基準には届かなかった。一方、卒業時の資格・検定取得数は1人当たり4.0個となり、設定目標である平均4個以上を達成した。全体として資格取得数は向上したものの、ジュニアマイスター取得者数の拡大には課題が残る結果となった。	課題である「難易度の高い資格・検定に挑戦できる環境づくり」を進め、ジュニアマイスター特別表彰に該当する生徒を育成していく。今年度の資格・検定取得数は1人当たり4.0個となったが、学科間で2.6~4.9個とばらつきが見られるため、各科に受験計画や指導方法の見直しを依頼し、差の縮小を図っていく。また、高難度資格に挑戦しやすいよう学習機会の拡充と学習方法の指導を充実させ、計画

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
					的な受験指導を通して資格取得数と挑戦意欲の向上を図っていく。さらに、ジュニアマイスター申請料の個人負担の在り方を検討し、申請しやすい環境を整えることで資格取得の促進につなげていく。
	ものづくり教育の推進	ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。 取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催し、その成果を校内外に広く知らしめる啓発活動を行う。	A	全国選抜高校生溶接技術競技会では炭酸ガスアーク溶接部門で産報出版賞を受賞し、N I Tプロダクトデザインコンテストでは3 Dプリンタ造形部門で優秀賞と佳作、3 Dモデリング部門やオリジナルアイデア部門でも佳作を獲得した。さらに、ジャパンマイコンカラー全国大会では優勝し、文部科学大臣表彰も受賞した。これにより、全国大会出場3部門の目標を達成した。本校はYouTube や SNS、地元テレビ局を通じて取組や成果を広く発信し、生徒の技術力向上とものづくりへの関心を高めることに寄与した。	全国大会複数部門への出場を継続するため、年間指導計画の早期策定と基礎技術の段階的育成を進める。外部指導者との連携や新規競技分野への挑戦により競技力の向上と活動の幅の拡大を図る。あわせて、上級生による後輩指導を仕組み化し、技術継承を促進する。さらに、YouTube・SNS等での情報発信や地域イベントでの発表を充実させ、啓発活動を強化する。設備・材料の計画的な更新を行い、安全で効果的な練習環境を整える。
	地域貢献を目指して	一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物の寄贈・メンテナンス等の活動を校内外において、地域と連携・協働して地域貢献に努める。	A	地域と連携・協働しながら、一日体験入学やものづくり教室、出前授業、製作物の寄贈・メンテナンスなどを通じて地域貢献に努めた。特に「東予ものづくり祭」や登道商店街での「小学生ものづくり体験教室」など、県内の様々な行事に参加し、生徒の技術力を活かした活動を展開した。また、イオンモール新居浜での学校説明会にも協力し、地域活性化に寄与した。これらの取組は、学校のPRにとどまらず、地域社会とのつながりを深め、ものづくりの魅力を広く発信することにつながった。	地域と連携した体験入学やものづくり教室、出前授業、製作物の寄贈・メンテナンスを継続し、地域貢献活動をさらに充実させる。地域行事への参加を広げるとともに、企業や商店街、公共施設との協働を強化し、ものづくりの魅力を発信する機会を拡大する。また、生徒が主体的に取り組める活動を増やし、地域とのつながりを深めながら学校の役割と存在感を高めていく。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
ICT教育	デジタルツールの活用推進	<u>えひめICT学習支援システム(EILS)を中心とするデジタルツールを活用した授業を、全教科の90%以上が実施できることを目指す。</u> (A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:50%以上 E:50%未満)	C	教職員のICT機器活用スキルについては、1・2学期ともに高い自己評価だった。一方で、授業等での活用状況については、60%程度にとどまっている。	教職員生徒ともに授業内外で効果的にICT機器を活用できるよう、生成AI等の効果的な活用方法も含めて、工夫・研究を行う。
	充実感ある学校行事の推進	運動会や新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わわせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	運動会や新工祭、グループマッチ等の学校行事は、生徒を中心に意欲的に取り組んで、活気のある行事となった。生徒会役員も準備や運営に積極的に取り組み、スムーズな運営に貢献した。	生徒会活動の活性化を図り、学校行事等のスムーズな運営を促すとともに生徒に自主的・意欲的に活動させることにより、達成感・成就感を味わわせる。
特別活動	地域共生プロジェクト	交流体験（ボランティア活動・保育・介護体験など）に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	B	災害ボランティア活動も生徒が立川地区の地域の方々と意欲的に清掃活動に取り組むことができた。運動会での聖マリア幼稚園児とのダンスも積極的に行うことができ、高評価をいただいた。	地域との連携を密にし、自主的・意欲的に活動することにより、更に連携を深め、豊かな人間性を育ませる。
	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作り、部の活性化を図る。	B	各部ともに意欲的・積極的に取り組んだ結果、特に運動部ではハンドボール部・ウエイトリフティング部・弓道部・少林寺拳法・ボクシング、文化部では機械部・電子機械部・電気部・写真部が全国大会に出場するなど素晴らしい成果を上げることができた。	部活動加入率を向上させ、自主的・意欲的な活動を促し、更なるレベルアップを目指すとともに多くの生徒が三年間継続して活動できる体制を工夫する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	<u>遅刻の回数を減らす。今年度、延べ800人以下を目指す。</u> <u>清潔感のある身だしなみをする習慣を定着させる。</u>	B	2学期末時点での遅刻数は618人。昨年度同時期860人であったため、目標に向けて今後も指導をしていきたい。 身だしなみについては、まだまだルーズな生徒が多く指導が必要である。	生徒会を中心に、時代に合った校則を今後も検討していくが、まずは目の前のルールをしっかりと守ることから改めて指導していきたい。
	規範・防犯意識の育成	<u>全校集会や生徒課だよりによって生徒や保護者に注意・喚起を促し、学校のルールや社会のルールなどルール遵守の意識を高める。</u>	C	学校や社会のルールを守れず、指導を受けた生徒が非常に多かった。その場の雰囲気へのまれ、後先考えた行動をとれない生徒が多いことに苦慮している。今後もその都度、全校集会や生徒課だよりで注意・喚起していきたい。	生徒だけではなく、保護者も巻き込んで生徒の規範意識の向上を目指す術を今後も模索していきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	教育相談の充実	生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。	B	学期ごとの紙媒体によるいじめに関するアンケートの実施は、いじめの防止・早期発見に加え、人間関係に悩む生徒の把握や問題解決にもつながっている。オンラインによるアンケートも毎月実施しているが、生徒の利用は少ない。	担任や保護者と連携し、面談のタイミングを逃さないようにしていきたい。 悩みを持つ生徒がいつでも気軽に相談できるように、学校の相談体制だけでなく、外部の相談窓口についても生徒・保護者に周知していきたい。
	特別支援教育の充実	支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。 外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。また、研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。	B	新居浜市や他市の教育委員会発達支援課と連携し新入生に対する丁寧な引継ぎを行うことで、円滑に高校生活がスタートできる支援体制が構築されている。また、保護者面談を通して支援活動を毎学期見直している。 本年度の教職員研修は、外部講師を招くことができず、昨年同様映像による研修を行った。今年度は、国立特別支援教育総合研究所が配信する動画を視聴した。	特別な支援が必要な生徒の情報について、常に最新の情報が全教職員で共有できるように、家庭との連携に加え、教員間での連携も強化していきたい。 スクールソーシャルワーカーの効果的な活用を検討していきたい。
人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	日頃の生徒との関わりの中で、生徒理解の観点に立ち、思いやりの心や自尊感情を育む。 全ての教育活動の中に同和教育の視点を位置付け、日々の生活の中で様々な人権課題の解消に取り組むことのできる生徒を育てる。	B	本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあると感じるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員をはじめとする生徒が四国中央市での現地研修会や新居浜市人権フェスタ等に参加し、相手を思いやる心や人権を尊重する心を育てるための機会を持つことができた。	全ての教育活動の場面において、人権・同和教育の観点に立った指導が重要であると教師が自覚して実践することで生徒の模範となり、受容的な態度で生徒の思いに耳を傾け、小さな変化にも気づけるような声掛けを実践していく。
	いじめ、差別のないクラス	互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。	B	いじめや差別のないクラスにするために、ホームルーム活動や講演会などを通して啓発に努めたが、いじめを許さない雰囲気づくりや行動に十分結びついているとは言えないのが現状である。	学校生活の全ての場面で人権感覚を磨き、いじめや差別を許さない行動に結びつくように、更に啓発に努めていく。
進路指導	就職指導の充実	地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、生徒自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、就職内定率 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	ホームルーム活動や、日々の教科指導による企業研究、地元企業への理解を深めるための企業見学、面接指導を通して生徒一人一人の能力や適性を十分に把握し、それぞれの生徒に応じた進路指導を推進した。	生徒の希望や能力、適性に応じた企業とのマッチングのために、企業情報の提供やアドバイスが必要である。企業が求める人物像が的確な形で生徒に伝わる工夫を検討したい。また、個々の適性に応じた進路指導を家庭

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
					の協力や理解を得ながら進めて行きたい。
	進学指導の充実	進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、生徒自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、進学先決定 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	進学補習を行うことで基礎学力の向上に努めた。また、進学情報を提供し、オープンキャンパスや学校説明会への積極的な参加を促した。進学補習や本人の努力、科・担任、教科担任の先生方の御協力により、香川大学1名、松山大学4名合格することができた。	入学試験に必要な情報の提供や進学補習の充実を促し、個々の適性に応じた進路指導を家庭の協力や理解を得ながら推進したい。
学校安全	学校安全の充実	防災避難訓練や消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。	A	年2回の非常変災対策訓練を通じて、地震と火事に対応するスキルを身に付けさせることができた。生徒はもちろん、教員も、防災意識を持つことができた。また、予告なしの訓練を行い、実際の対応に近い意識付けができた。	今後も、地震、火災に対する訓練はもちろん、有事を想定した訓練を実施し、「使える」スキルを研鑽していくことが大切と考えている。
学校保健	学校保健の充実	健康診断の機会に、生徒に自らの健康について関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。 また、感染症流行時には、休み時間の教室の換気や手洗い・うがい、マスクの着用など各自の感染予防策の徹底を促す。	B	健康診断後は異常の有無にかかわらず全員に結果を通知し、生徒一人一人が自らの健康状態に目を向ける機会とした。併せて、医療機関の受診等の事後措置が必要な生徒には個別に声掛けを行った。 また、感染症流行時における個人主体の感染症対策については、生徒が自分事として捉え、実践できるよう、保健だよりや掲示物等を活用して、感染症予防の啓発を行った。	健康診断の結果等から把握した生徒の健康課題については、関係教職員と情報を共有し、日常の指導や授業の場においても健康への配慮や指導に生かしてもらえるよう、適切な情報提供を行っていく。
		委員会活動を中心に、校内の衛生環境の整備や健康意識の向上に努める。	C	保健委員会の活動を通して、環境衛生検査やAEDの点検等を実施し、校内の衛生環境や安全体制について確認することができた。これらの活動により、生徒が校内の衛生環境や健康・安全への意識を高める機会となった。	生徒が自ら健康のための環境づくりに主体的に取り組めるよう、保健委員会の活動内容や校内の環境衛生の状況について、積極的な情報発信を行っていく。
学校行政事務	教育環境の整備充実	施設・設備の整備充実を図り、安心・安全な教育環境を整える。	B	各学期毎に校内安全点検を実施し、不良箇所を整備している。 また、高額な費用を要するものについては、校舎等整備計画書を施設厚生室に提出し、順次修繕を行っている。	次年度も引き続き、日々の点検等に努め、教育環境の整備を行っていききたい。
	会計処理の適正な執行	会計手続について職員に周知し適正な会計処理を行うとともに、県費・私費共に計画的に予算執行を行う。	B	不適正経理に関する職場研修等を通じて、適正な会計処理取り組んでいる。 予算残額を定期的にお知らせして、計画的な予算執行に努めている。	不適切な会計処理が起こらないよう、職員会等で情報を発信していききたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間適正化を進め、休憩時間を確保する。業務の効率化や平準化を図り、時間の有効活用に努める。	C	複数の会議をまとめて行ったり、授業時間帯を活用して会議を行ったりした。また、長期休業中のテレワーク制度の活用も推進し、ワークライフバランスの向上につながった。	引き続き、勤務時間適正化につながる取組を行いたい。また、テレワーク制度の活用も推進していきたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的 to 実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	メンタルヘルス関係・福利厚生情報を電子掲示板で発信した。また、希望者を対象に校医による健康相談を行った。	昨年度から導入されたA I メンタルヘルスシステムの活用も積極的に推進していきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。